

「手で考える」という教育

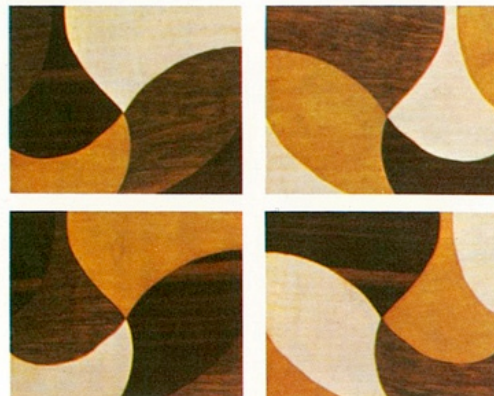
—— シグネウスとレットガー ——

【講師】 宮脇理

美術教育研究者、元筑波大学教授、美術科教育学会元代表理事

日時：2012.11.15(木) 19:30～21:00(開場 19:00)

会場：amu



概要

日本の美術教育の第一人者・宮脇理先生をお招きし、フィンランドとドイツの2人の教育者の思想をもとに「手で考える」教育についてお話しいたします。

日本語における「て：手」という言葉は、古くから広い意味と範囲をもって使われています。"広辞苑"を見れば、「30を超える語義」があるほどです。たとえば、「行為・行動に対する習熟」「音声言語によらず感情や意志の伝達を行う手段」「仕事・動作の主体を象徴」などさまざまな奥深い意味があります。

まず、今回は産業革命以降、機械による工業製品の大量生産が行われるなか、「手で考える」ことを提唱したフィンランドのウノ・シグネウス(1810-1888)を紹介します。「手で考える」ことの起源にさかのぼり、手を使うことの重要性について考えます。また、「感覚の覚醒」を唱えたドイツのエルンスト・レットガー(1899-1968)を紹介し、その核心部分をご説明します。

フィンランドとドイツ。今、世界的にも教育先進国として、また産業においても安定したモデル国として注目をあつめる両国の発展の秘密が、この2人の先駆的な教育者の考えに秘められているように思えます。現在の日本やこれからの教育を考えるうえで重要な「手」の役割をみなさんと一緒に考えます。

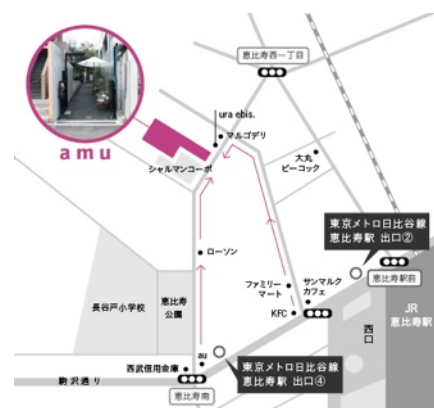
定員：40人 入場料：1000円 主催：amu (AZホールディングス)

会場：amu (東京都渋谷区恵比寿西1-17-2 TEL.03-5725-0145)

アクセス：JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン 恵比寿駅西口 徒歩4分

東京メトロ日比谷線 恵比寿駅4番出口 徒歩2分

申し込み：ウェブサイトからお申し込みください。 <http://www.a-m-u.jp/>



宮脇理 (みやわきおさむ 美術教育研究者)



1929 (昭和4) 年、東京生まれ。博士 (芸術学)。戦後社会の激動の中で、美術だけでなく文化全体にわたる広範な知見から、日本の美術教育の先駆者として工芸・ものづくりを通じた感性教育の発展に尽力。

少年時代を中国で過ごす。1953 (昭和28) 年、東京教育大学 (現筑波大学) 卒業。文部科学省教科調査官、岡山大学教授、横浜国立大学教授、筑波大学芸術学系教授、佐賀大学教授などを歴任。美術科教育学会元代表理事。上海・華東師範大学の顧問教授もつとめ、美術教育を通じた日中友好に貢献。

著書に『工芸による教育の研究』(建帛社、1993年)『感性による教育』(国土社、1988年)など多数。訳書にエルンスト・レットガー著『土による造形』(造形社、1977年)、ハーバード・リード『芸術による教育』(宮脇理・直江俊雄・岩崎清共訳、フィルムアート社、2001年)など。